

## 大学の世界展開力強化事業(令和元年度採択)中間評価結果の総括

令和4年3月2日

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会

この度、本事業において令和元年度に採択された3件のプログラムの令和2年度までの取組状況等について、中間評価を実施した。

今回、中間評価の対象としたプログラムは、「日-EU戦略的高等教育連携支援」として、質の保証を伴った交流プログラムを実施する2件と、自ら交流を実施しながら、蓄積された知見や経験等を集約し、選定大学をはじめとした全国の大学等の活用に資するプラットフォームを構築する1件である。

今回の評価では、令和2年度から続く新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、国境を越えた移動が制限される中で、各大学の国際化に向けた工夫や改善についても評価するため、オンラインによる交流も一部実績に含める等の対応を行った。また、感染拡大防止の観点から、評価に係る全ての審査・調査等をオンラインで実施した。

結果は、A(「これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される」)が2件、B(「当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される」)が1件となった。

なお、本評価においては、Aが標準的な評定である。

中間評価を通じて認められた特筆すべき取組内容は、以下のとおりである。

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受け渡航が制限される中でも、オンデマンドでの講義配信やビデオ会議運営等、迅速かつ適切な対応を行った。
- 定期的な合同マネジメント会議でプログラムの課題等を検討する等、プログラム遂行のための体制を整備し、日EU双方のカリキュラムの特徴を生かしたプログラムを構築しようとしている。
- プログラムの運営にかかわるAMBとQABのもとでハンドブックを明文化した取組や、学生のために学則改正を行いプログラム参加者の標準修業年限を2年6ヶ月として参加しやすい環境を整備した。
- 渡航支援については専任スタッフが行い、受入学生の支援に関しては在籍学生をサポートとして配置し、学生1名に教員1名を指導教員として配置している。
- 各参加大学間でオンライン授業が提供され、学修成果を確実にあげるとともに、国内外の学生による共同作業を多く盛り込み海外の学生との友好関係も構築できている。

各プログラムにおいては、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルとなるべく、今後も目標達成に向けて着実に取組を推進していくとともに、評価結果に付された本委員会からの意見や指摘を踏まえ、更なる改善・発展に努めることが求められる。また、補助期間終了後の自立化を見据えて、環境整備や雇用した教職員の処遇などの検討を進めることが不可欠である。

大学の世界展開力強化事業（令和元年度採択）中間評価結果一覧

交流先国	設置区分	整理番号	大学名（代表大学）	事業名	評価
EU	国立	1	東京外国語大学	歴史と公共圏を鍵概念として日欧相互理解を深める国際人材育成プログラム	A
	国立	2	豊橋技術科学大学、宇都宮大学、千葉大学	近未来クロスリアリティ技術を牽引する光イメージング情報学国際修士プログラム	A
	私立	3	慶應義塾大学	Japan-EU高度ロボティクスマスタプログラム（JEMARO）	B

参考：評価区分

S	優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。
A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
A <sup>-</sup>	これまでの取組を一部改善することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
B	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
C	これまでの取組状況等に鑑み、目的の達成が困難な取組があると考えられ、成果を見込めない取組については縮小・廃止し、財政支援規模の縮小が妥当と判断される。
D	これまでの取組状況等に鑑み、事業目的の達成は著しく困難と考えられ、財政支援の中止が妥当と判断される。